

## 1.経緯

私は元々、健常者として生活していた。しかし、高校生以降は視界が狭まり、歪みが出始め、大学3年時に視覚障がい者として生活するようになった。障がい者と言われるほどに症状が進行した状態で生活すると、普段利用している鉄道の駅やホームは視覚障がい者にとって利用しづらいのではという疑問が湧いてきた。現在の駅ホームの状況を見ると、東京メトロのように人が線路に落下しないようにするホームドアの設置がほとんど完了している鉄道会社もあるが、京王線のように1割程度しか設置が完了していない鉄道もある。では視覚障がい者にとって現在の駅ホームは利用しやすい場所なのか、また、今までにはない配慮の必要があるのかを研究テーマとして考察していきたいと考えた。

## 2.目的

現在の鉄道の駅、ホームは視覚障がい者にとって利用しやすい場所なのかを既存のアンケートや鉄道会社のホームページに記載されている駅、ホームの安全策、鉄道会社が発表した事業計画書を用いて検証していく。そして、どのような改善や配慮が必要なのかをこれまでの情報を基に明らかにしていくことが本研究の目的である。

## 3.本研究の進捗状況

まずは障がい(障がい者)とはどのような状態を指すのかをまとめ、鉄道の駅ホームの対策は、駅、ホームに設置されているホームドア、内方線付き点状ブロックの設置駅の数や鉄道会社独自の対策をそれぞれの鉄道会社のホームページを用いて調べている。また、視覚障がい者の駅利用の現状を知るために視覚障がい者を対象とした既存のアンケートを用いて研究を進めている。

## 4.今後の研究計画

今後も現在行っている鉄道会社のホームページにて現在の安全策の状況や視覚障がい者を対象とした既存のアンケート、厚生労働省に掲載されているIFC(国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-)を用いて研究を進める。また、事業計画書を読み、今後の駅の安全策の取り組みや完成時期を調べる。研究が進み次第、視覚障がい者が駅ホームを利用しやすくするための対策を文献や現在ご指導頂いている就労移行支援の職員の方にお話を伺いさらに詳しく研究を進めていく。

### 参考引用文献

(1)毎日新聞東京本社社会部・日本盲人会連合 視覚障害者の鉄道駅に関するアンケート調査 調査結果平成29年3月

(2)日本盲人連合・東京都盲人福祉協会 危険と思われる東京都内の駅ホーム実態調査アンケート集計平成28年9月

(3)内閣府 障害者基本法：障害者施策(昭和四十五年五月二十一日法律第八十四号)

(4)京王グループ ホーム安全対策 閲覧日2022年7月16日17時29分

[https://www.keio.co.jp/group/traffic/security\\_feature/platform/index.html](https://www.keio.co.jp/group/traffic/security_feature/platform/index.html)

(5)東京メトロホームページ 駅の安全対策安全への取り組み 閲覧日2022年7月16日17時45分

<https://www.tokyometro.jp/safety/prevention/station/index.html>

(6)東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本ニュース バリアフリー設備の整備を促進します ~ ホームドアは整備を拡大・加速~

2022年4月5日